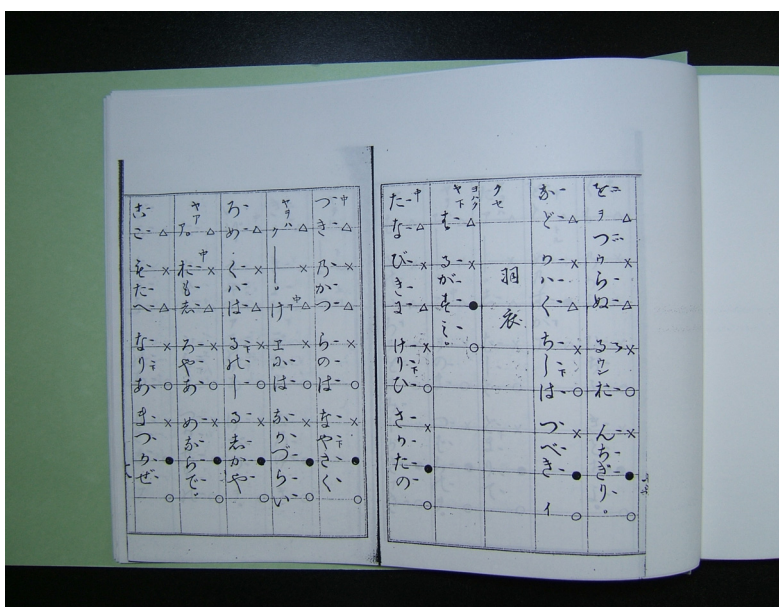
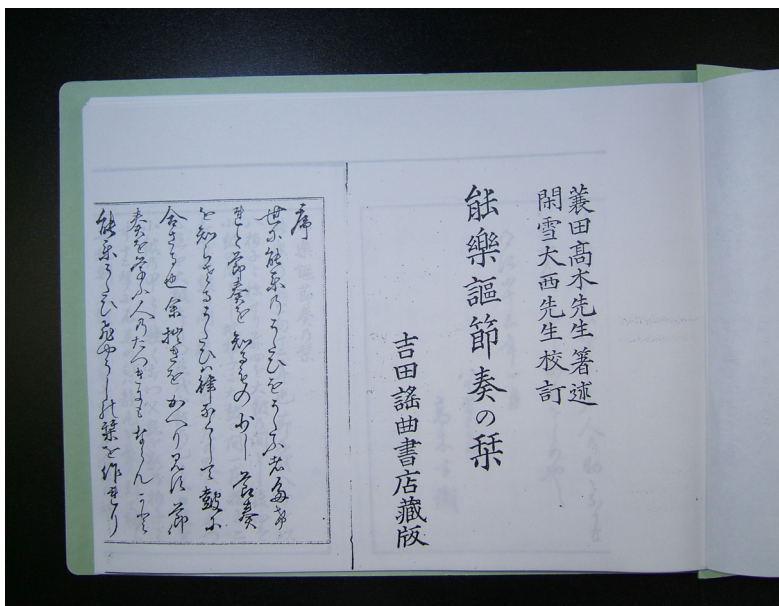


高木半 『能楽謳節奏乃栞』

高木半による序は「世に能楽のうたひをうたふ者多けれど節奏（リズム、拍子）を知るもの少し節奏を知らざるうたひハ律なくして鼓に合さる也」とはじまる。間の名称について、マッタキフシ（本地）、当間（イヤ）、傍間（ソウノマイヤア）、置間（オクマカケ切、ヤヲ）、尽間（イヤヲハ）、太打節（一地）、半打節（ヒツトリートル）、小打節（オクリ）等、独特の用語を使用。「鶴亀、鞍馬天狗、高砂、加茂、船弁慶、羽衣、猩々」の部分謡を近古式地拍子で表記する。



標題 内題…能楽謳節奏乃栞

標題紙…

奥 附…

その他…能楽うたひやうしの栞（序）、
能楽謳節奏の栞（見返）、謡拍子
之栞（題簽）

著者 奥 附…高木半

その他の場所…高木半（序）、叢田高木先
生（見返）、叢田高木半（巻末）

出版 版次…第一版

出版地…大阪

出版社…吉田謡曲書店

出版年…明治45（1912）

その他の場所…序 明治45（1912）

形態 冊数…一冊 頁数…

寸法…

状態 写本版本の別…未確認

現物複写の別…複写

備考 大西閑雪校訂。横道萬里雄所蔵の本を複
写。